



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 河川事業】

事業名	安全な川づくり事業
事業箇所	一級河川 菊沢川 L = 3,300m 佐野市 <small>ふなつがわちょう</small> 船津川町地先～ <small>たじまちょう</small> 田島町地先
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 河川課

I 事業の概要

【目的】

一級河川菊沢川は、佐野市^{とちもとちょう}栃本町に源を発し、佐野市街地を流下して、一級河川渡良瀬川に合流する流域面積 $A=8.5\text{km}^2$ 、管理延長 $L=13.0\text{km}$ の河川である。

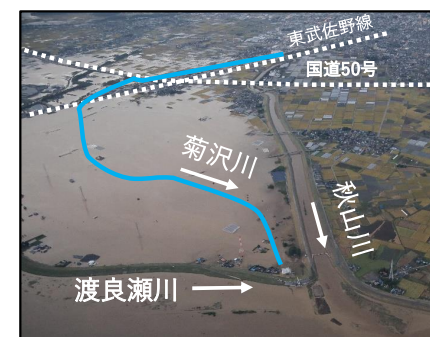
本区間は、川幅が狭く流下能力が不足しており、近年では、平成27年の関東・東北豪雨及び令和元年東日本台風において、家屋や農地等へ浸水被害が発生している。

本事業は、浸水被害の軽減を図るため、河川断面の拡大を行うものである。

【現況】

目標事業期間 (変更前)	令和5年度～令和21年度 (令和5年度～令和21年度)		
事業経過	令和5年度	事業化	
	令和7年度	事業再評価	
	令和8年度	用地取得着手予定	
	令和8年度	工事着手予定	
全体事業費 [うち用地補償費]	62.0 (29.0) 億円 [1.6 (1.2) 億円] ※ () は前回計画時		
事業延長 [うち整備済延長]	$L = 3,300\text{m}$ [$L = 0\text{m}$]		
進捗率	基準年次：【令和7年度末時点】		
		費用	進捗率
	既投事業費	2.5億円	4%
	[うち用地補償費]	0.0億円	0%

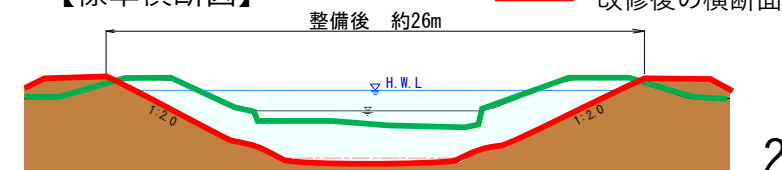
【事業概要図】



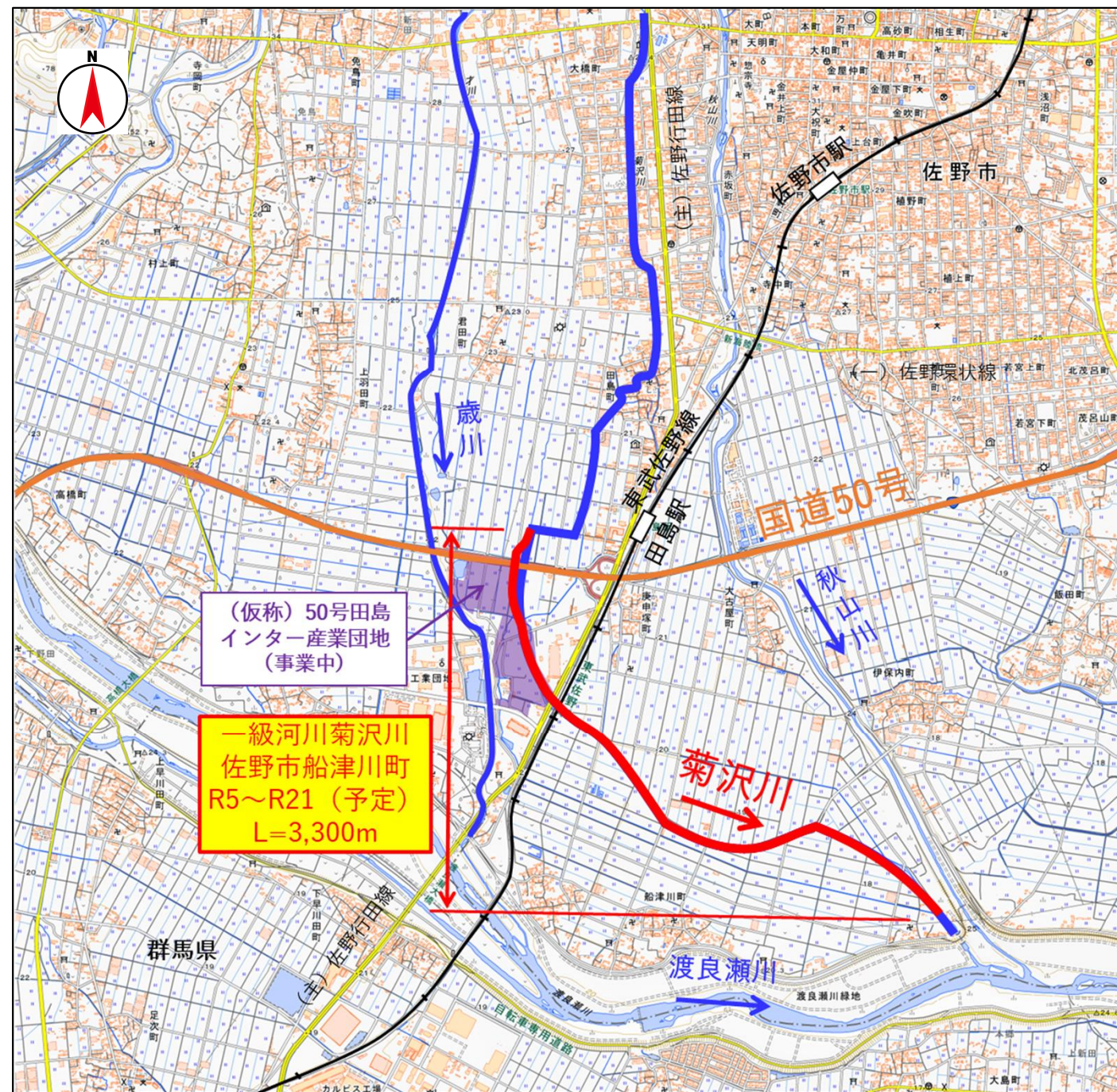
出水状況
(令和元年東日本台風)

- 計画規模：1/5確率
- 計画流量：50、70 m^3/s
- 河床勾配：1/1,500

【標準横断面図】



【箇所の概要】



II 事業の評価

【今後の事業進捗の見込み】

- ・ 事業期間の見直し（変更なし）
令和21年度 ⇒ 令和21年度
- ・ 総事業費の見直し
29.0億円 ⇒ 62.0億円

【全体事業費の見直し】

		前回計画 (R5年度)	今回計画
	事業費	29.0億円	⇒ 62.0億円（+ 33.0億円）
内	工事費	27.8億円	⇒ 60.4億円（+ 32.6億円）
訳	用地補償費	1.2億円	⇒ 1.6億円（+ 0.4億円）

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B/C	総便益(B)	総費用(C)
(1)事業全体	2.8	129.7億円	47.0億円
(2)残事業	2.9	128.8億円	44.6億円

2 事業の整備効果等

- ・ 計画規模 1 / 5 の降雨で想定される宅地や道路、農地の浸水被害が解消される。
- ・ 河川断面の拡大による河岸・水際部の整備にあたっては、現況の瀬や淵を極力保全するとともに、水際部に植生が繁茂できるように配慮し、生物の生息・生育・繁殖環境を保全する。

II 事業の評価

【事業の進捗状況等】

※令和7年度末時点

1 事業の進捗状況

全体事業進捗率	4 %
用地	0 %
工事	0 %

2 今後の事業進捗の見込み

- ・用地取得、工事を推進し、令和21年度を目標に事業完了を図る。

菊沢川（河道掘削・護岸整備）

整備前（川田橋上流）



整備前（国道50号上流）



【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- ・現況河道を活かした計画とすることや、既設の護岸を利用することで、事業コストの縮減を図る。
- ・河川の掘削土砂を築堤材として活用し、コストの縮減を図る。
- ・他事業と調整し、建設発生土の事業間連携を図る。

2 代替案立案等の可能性

- ・代替案として遊水地や捷水路を整備することが考えられるが、工事に要するコスト等を考慮すると本計画が最適である。

【事業の対応方針（案）】

- ・本計画で事業を継続する。